

平成 30 年度

事業活動報告書

社会福祉法人 グラン・ヘリオス会

平成 30 年度 事業報告

H30 年度施設目標

「同じ目線で思いやりの心 ー優しく寄り添い安心できる暮らしをー」

職員一人ひとりが、入居者・利用者様の想いを大切に、コミュニケーションを意識的に取り安心していただける支援に繋げることが出来た。

【日中オムツ排泄ゼロ】

- ・平均 56%の達成率
- ・オムツの削減
- ・本人の気持ちを大切に継続していく

【口腔機能を維持し美味しく食べる】

- ・全フロアで食事前に嚥下体操の実施
- ・歯科往診での定期的な指導・アドバイスを周知
- ・口腔ケアに対する意識向上により会議等での意見交換

【身体拘束ゼロの実践】

- ・身体拘束ゼロの施設方針を掲示
- ・委員会の定期的な開催・検討

特養稼働率・タイムラグ

- ・従来型 97.2% 50.6 名 ユニット型 96.6% 46.4 名
- ・タイムラグ 本館 10.5 日 新館 12.5 日
- ・退所者数 本館 11 名 新館 16 名 合計 27 名
- ・27 名退所者のうち 12 名がターミナルケア、15 名は急変等により医療機関へ

在宅部門

- ・地域包括・居宅・デイサービス・ショートステイとの月 1 回定例の在宅部門会議の実施
- ・デイの利用が 1 日平均 28.3 名（H29 年度 1 日平均 28.9 名）
- ・ショート利用が 1 日平均 7.7 名、稼働率 95.7%

委員会活動

- ・分野別専門的に議論し各部署会議にて検討
- ・各部署より検討意見を持ちより具体的な検討・実施

施設のイベント

- ・ 9/1 納涼祭 実行委員会を設置
- ・ 12/28 もちつき大会
- ・ 5/9 さいたま水族館、9/14 敬老会、10/1 日帰り旅行（東武動物公園）、3/20 いちご狩り
- ・ イベント委員会を中心に計画性を持ち実行

1 ユニット化

- ・ 11月より1ユニット承認を受ける。
- ・ 入居者・職員間のコミュニケーションが充実し時間にゆとりができた
- ・ 情報の共有や安全確保がより向上
- ・ ケア実践、記録、申送り等介護の質の向上

苑内設備更新

- ・ 新館の特浴2台の入替
- ・ 本館テーブル・椅子の入替
- ・ 本館玄関の改修

実習生の受け入れ

- ・ 関東福祉専門学校から第1段階～4段階実習で6名の実習生（6名中5名外国人）
- ・ H31年4月採用の新卒求人募集に対して1名採用（埼玉福祉専門学校）

教育研修

- ・ 苑内での伝達研修会を18回行い、平均15名が受講
- ・ 外部講師を招いて認知症研修を実施し20名が参加
- ・ 第11回事例報告会では、9部署が発表

社会福祉法人として

- ・ 彩の国あんしんセーフティネット事業での生活困窮者への対応
- ・ 地域に向けて施設見学会を年3回実施
 - 第1回 介護保険制度について 13名
 - 第2回 認知症勉強会 31名
 - 第3回 施設設備体験 17名 合計61名
- ・ 川里フェスティバルに参加 介護・健康相談 高齢者被害等のチラシ配布
- ・ 障害者雇用の継続

平成 30 年度 各部署の評価

部 署 名	評 価
本館2階	行事の計画も変更はあったがその都度協力し行う事が出来たと思う。年四回の誕生会も家族に参加してもらいながら楽しく出来ました。毎日の挨拶は注意していたが、業務が先になってしまったようにも思う。職員同士コミュニケーションを取り、協力しあえたことが多かったと思う。
本館3階	目標の報・連・相は、申し送りノートを中心に言い、昨年度よりも心掛けることはできていた。ノート等の確認不足や日々変更する対応でモレがあった場合、口頭によるフォローも心掛けていた。担当を中心に意見交換を行い、個別ケアに繋げることもできました。SSに関しては、相談員からの報告が無いこともあり対応が難しかったとの意見が上がったのでもう少し連携を取っていききたい。
新館1階	毎月のワーカー会議、フロア行事は計画通りに実施出来ました。ワーカー会議では出席者の少ない月が二度あり多数出席できる日を計画していきたく思います。フロア行事は毎月美味しくできました。毎月いい思い出が出来ました。今年度は入居者様四名入れ替わりがありました。秋頃は二名入れ替わりもあり職員不足の日もあったが情報共有にて不安解消しいいケアに繋がれたと思います。一階は面会者が多いので日々担当を中心にご家族様とコミュニケーションを図っています。一名新入職員が入りいい指導が出来るよう努めていきたいです。
新館2階	①落ち着いた日常生活が提供できたと思います。職員各自声掛けはきちんと行えた。言葉遣いは継続的に注意する。②2.3月と行事活動が出来ませんでした。外出を希望される入居者様もおり、年に一回一つでも希望を叶えてあげることができたらと思います。
新館3階	ラウンジ(食堂)以外の環境づくりが手つかずで変化がなかった。来年度はスタッフ間で意見を出し合い、居場所づくりができるといいと思います。もっと外出する機会を増やしたかったが、外食の敷数のみだったので、花見等の外出を増やしていきたい。
新館4階	「その人の望む暮らし」という視点がとても難しいという意見がスタッフより出ました。実際入居者様が望まれることは一人一人違いはあるが、施設の中での生活ではやはり難しく考えてしまいました。①「毎日の選択」という部分では自分の思う事など選択出来た方もいたと思います。②スタッフ同士常に入居者様にとってどうなのか？考えるような話し合いが出来ていたと思います。③カンファレンスにご家族様にも参加していただけるよう方向性はあったのですが実践としては一件のみしかできなかったので次年度目標に繋がりたいと考えます。
デイサービス	計画通りに立案出来ない月もあったが、概ね外出行事などの季節ごとの行事もいくつか取り入れることが出来て利用者様からの反応も良かった。毎月のクラブ活動でも担当が作品展など行き様々な工夫が活かされ充実していた。利用者数については目標を達成できていなかったのので来年度は目標達成できるよう努め新規や臨時・追加利用に対して柔軟に対応して相談対応の充実や他事業所との連携強化を図っていききたい。
事務	職場定着支援金、障害者雇用関連等の助成金申請による収入を取得できた。ストレスチェックも一月の実施となったが全員問題なく実施できた職員の産前、産後の休暇に伴い役割分担の変更あり、今まで以上に連携を図る為部署内の朝礼を開始した。互いの業務の理解は深めることが出来たが課題も多い。今期の課題を来期改善できるようチームで取り組んでいきたい。受付、来客への対応は、行動評価を生かし対応することが出来たよりよい接客にするためには、他部署との連携の重要性を改めて感じた。来期は他部署との連携も強化していきたい。
看護	今期はいつもより看取りも若干少なく、重なったりすることもなかったが、検死が一件入ったことが特養NSとしてはつらい現実であった。提携病院との連携が何年経ってもスムーズでないことが一つの原因であると思われる。今期の「特養らしさの看護の確立」はまだまだ課題もある。
栄養	利用者様の粥が緩かったり、職員御飯が硬い問題を見直しを行い、改善に努めることが出来たと思います。ケーキビュッフエの実施が実施予定日より遅れてしまったので次回は予定通り行いたいと思います。又、年間目標であるユニット調理は利用者様も食材を切ったり盛り付けたり積極的に参加して下さり楽しく行えました。
生活相談員	平均稼働率 本館96% 新館96% ショートステイ96% であった。入所申込数は現状、本館29名 新館12名と微増となっている。今年度より本館相談員が新しく代わり引継ぎについては時間を要したが現在では各々で行えている。今年度は退所数が本館9名、新館14名と新館が特に厳しい状況である。併行しながらショートステイの担当者会議や契約、調整、送迎など煩雑な業務を2人で協力して行ってきた。ショートステイの月の平均利用者数は32、5人と昨年より増えており現場も含めて入退所時の準備や受け入れ体制の改善が求められている。
居宅	昨年度末に大島CMが入職。居宅も三人体制となり新規利用者拡大に精力的に努めた。一件も断ることなく又、困難事案も積極的に受け入れ、速やかに行政や包括と連携を取ることが出来た。一人一人が目下の課題に真摯に取り組むことで利用者数も増加、信頼を得ることができた。31年度は年号も変わり、心も新たにより一層の研鑽と個々の成長の年としたい。
介護支援 専門員	入所申し込みや実調時に得られた情報以外に、入所以前の生活状況・情報収集(居宅計画書・前施設計画書)に努めると共に、入所説明時にはご家族との面談を心掛けて、より本人・家族のニーズが反映された計画書作成に努め、入所当日には暫定計画書を準備し、ケアの指針として交付することができた。カンファレンス後の会議録・モニタリング・評価表・計画書の作成・回覧が速やかに行うことができていた。又、関係部署からの書類提出も速やかになり、実施日前には殆どの計画書を送付できている。限定された利用者様の同意書回収に滞りがあるが、引き続きご家族の状況に合わせた方法で協力を仰いでいきたい。本年度は、ご家族の意向を受けて、件の看とり計画書の作成、ケアを行うことができた。より良い看とり介護が行えるよう、関係部署との連携の改善に努めたい。
地域包括	民生委員さんや、市役所からの要請での独居訪問と個別訪問で、高齢者が住み慣れた地域で暮らせる支援をさせていただいた。認知症サポーター養成講座の実施、ご近所見守りたいフォローアップ研修を通して、認知症になっても安心して暮らしていける地域づくりを行った。二回の介護者教室と交流会が行えた。介護者支援を行えた。地域ケア会議やネットワーク会議を通じ地域ネットワークを作り、連携を深めることができた。

平成 30 年度 委員会・会議評価

委員会	委員長	目標	開催日		
広報委員会	渡邊	・新しい取り組みは良かった・多くの方に見て頂く工夫が必要・字が小さく見づらい →拡大する(掲示用)・各部署から掲載してほしい事があっても良いと思う	第1	月	16:00～
イベント委員会	島田	特養とデイサービスでは大きな行事以外と一緒に参加することが無かった。来年度は合同参加の行事を企画していきたい。動物園外出等は入居者より好評なので翌月連続での計画を立てても良いと思う。一方では遠出の行事は疲れてしまうとの意見もあり、もっと近場で外出込みの企画も立ててみたい。納涼祭やもちつき大会などの施設全体の行事についてはイベント委員に限らず他の職員にも協力を求め積極的に動いて貰えるよう細かく役割分担を決めていく。			
接遇委員会	野本和	1年間モデル行動(改善提案、コミュニケーションの充実)を意識し、実践がもう少しできていたらと思う場面も多かったと思う。朝礼を使つての唱和は来年度も行っていきたいと思う。	第2	月	16:00～
衛生委員会	岡村直	健康診断については年2回、インフルエンザ予防接種については11月に滞りなく実施できた。福祉用具在庫管理をフロアに依頼し、集計資料に基づき、必要な物・台数等検討を行った。ウィルステラ・マスクの使用徹底や面の制限等により感染防止に努めた。 →入居者及び職員で数名インフルエンザに感染したが、拡大及び大事には至らず。マッスルスーツについては、討議を行うに留まり、有効活用としての実践とまでは行かず。			
防災委員会	藤田	今年度の評価として、5月に夜間想定訓練を実施し、PHSからの通報訓練を行ないました。近年の水害被害が多くあることから、火災訓練のみだけでなく、今年度は水害の意識づけを考え水害想定訓練を実践し、参加した職員は水害に対する意識が持てたと感想の声が聞かれた。			
給食委員会	荻野	利用者様の粥が緩かったり、職員御飯が硬い問題の見直しを行い、改善に努めることが出来たと思います。ケーキビュッフェの実施が実施予定日より遅れてしまったので次回は予定通り行いたいと思います。また、年間目標であるユニット調理は利用者様も食材を切ったり盛り付けたり積極的に参加して下さり楽しく行えました。			
ポスト会	藤田	今年度は実地指導があり実地指導の準備・指導点検・結果について、その都度伝達し職員間へも共通理解をする事が出来、段取りよく進められました。指導結果も職員に周知でき情報の共有が出来ました。来年度の国、行政、施設としての動きを取り組み、方向性を理解し各職員に情報提供をして前向きに取り組められるような情報共有が出来ました。	第3	水	15:45～
事故防止対策委員会	高山	各部署での報告にて問題が上がった時は課題にし、検討することが出来た介護事故はやむを得ないことだが、対策をもう少し具体的に提案し報告書を財産として今後の防止に繋げていきたい。			16:00～
排泄・褥瘡予防ケア対策委員会	中田	褥瘡に関しては今年度もエアーマット、ジェルマットの使用により早期発見ならば改善が早いことを実感することができた。しかしながら閉塞性動脈硬化症などの状況による褥瘡の根治は難しい処置や対応に対しても何が良くてどうしたらいいのかという難しい壁にぶつかってしまった。医務的ケアの方では7名の受講者がおり、今後の活躍が期待される。	第3	月	16:00～
入所判定委員会	島田	毎月、入所判定会議の際は第三者委員の方2名にご出席いただき意見を頂きながら、入所決定過程の透明性・公平性を確保することを重点にすすめる事ができた。待機者数としては年間を通して大きな変動はなく以前として厳しい状況である。特に新館に関しては減少傾向にある。施設見学会などの地道な活動から居宅のケアマネジャー等にもPRするなどの努力をしていきたい			
苦情処理委員会		苦情の報告を受けた際には事実関係を確認し、謝罪とその対応については当事者やリーダーとも話し合いをし迅速に動けたと思う。その結果トラブルが大きくなることを回避できた。ご意見箱については、投書が少ないように感じるのも、もっとご意見を気軽に頂けるような工夫をしていきたい。			
教育委員会	古市	新入職員研修の実施と施設職員としての必須項目の研修8項目15回と、伝達講習3項目平均15名、AED講習17名受講第11回となった事例報告会は9部署発表(26名の参加)を共有することができた。	第4	金	16:00～
虐待防止委員会		虐待に繋がるような支援がないか、各フロアで日頃の状況について話し合ってもらい委員会で共有し、職員のストレスに繋がらない様に話し合う事が出来た。フロア、他部署にも施設内である問題行動など、個人の問題として捉えてもらい虐待防止に努めることができた。			
身体拘束廃止委員会	川島	各フロアで拘束をしないために、問題のある方への対応をみんなで話し合い対策など提案することが出来た。又、拘束が必要な方へ早期解除できるよう、工夫等して頂けている。今後も今年度同様に議論できればと思う。	第4	月	9:20～
経営会議	牧	法人の運営ならびに経営状況を月報を通じて共有・確認し、意見交換することによりコスト意識や業務改善につなげることが出来た。方向性の確認が出来ている。			
幹部会議		情報の共有・意見交換することにより健全な施設運営に繋げることが出来た。中長期的な経営方針を議論することを次年度の課題としていきたい。	毎週	月	9:20～
臨地委員会	河野	外国人留学生を多く受け入れ、課題もできた。「知っているだろう」ではなく細かいところまで指導していく。日本人以上に積極的に声をかけていく。外国人を受け入れる事で施設側も良い経験が出来ている。	5月・7月・9月・11月		